水稲種子センター地鎮祭・起工式

9月1日(金)、水稲種子センターの建設工事にともなう地鎮祭と起工式が、秋田市上新城の建設予定地で行われました。佐藤広美組合長や穂積志秋田市長、工事関係者ら約30名が参列し、種子生産現場の作業効率などの向上に向けて、工事の安全や無事の完成を祈りました。

同センターで「あきたこまち」「サキホコレ」など県内の主力品種の種子を手掛ける(一社)耕壌会種子生産組合から、老朽化にともなう施設設備の更新の要望を受け、当JAは水稲種子の生産や供給を安定的かつ効率的に続けられるように計画を進めてきました。

新たなセンターは現在地の西側に建設し、来年3月に竣工して令和6年産米(令和7年供給種子)からの使用を予定しています。

佐藤組合長は「高品質な米を生産するためには、優良種子が欠かせない。工事が滞りなく完了し、種子生産の処理能力の向上や持続可能な安定生産につながることを期待している」と話しました。

1…鍬入れをする佐藤組合長
2…祓い清められる建設予定地
3…新センターによる水稲種子の安定生産に期待を寄せました

秋冬ネギ猛暑後の管理を学ぶ

9月11日(月)、秋冬ネギの現地研修会が秋田市雄和の(農)アグリあいかわで行われました。生産者ら約20名が猛暑後から収穫期にかけての病害虫防除などを学びました。

秋田地域振興局農業振興普及課と秋田地区営農センターが、異常な高温と少雨となった今夏の生育経過や病害虫の発生状況を説明し、生育に合わせたていねいな栽培管理を行うよう呼び掛けました。参加者は「夏扇パワー」「大河の轟き」などの生育を観察して品種特性を比較し、葉の広がりや太さ、管理作業などの意見を交わしました。

ネギの病害虫対策を学ぶ参加者

小学生が梨の園地・選果場を見学

9月14日(木)に男鹿市立脇本第一小学校3年生が、15日(金)には同市立北陽小学校3年生が、郷土を学ぶ校外学習の一環で五里合地区の梨の園地や中石梨選果場を見学しました。出荷までの一連の様子を学び、特産の「男鹿梨」への理解を深めました。

男鹿地区営農センターの職員が産地の規模や栽培管理、出荷基準などを説明すると、児童から次々と質問が上がり生産者や職員が答えました。同選果場での昨年の出荷量が約460トンに上ったことを職員が説明すると、子どもたちは声を出して驚く様子を見せました。

園地で梨の栽培方法などを学ぶ児童

キャッシュカード・通帳・証書などを紛失したときは
お取引のJA支店にご連絡ください
営業時間外はJAバンク・キャッシュカード紛失共同受付センター 0120-411-180まで